

横浜市立 神大寺小学校 学校評価報告書 (令和4～6年度)

重点取組分野	令和4年度		総括	重点取組分野	令和5年度		総括	重点取組分野	令和6年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①学習指導要領で目指す、主体的・対話的で深い学びの具現化やカリキュラムマネジメントにより授業改善を図る。②ICT機器を有効活用し、意欲の向上に生かす。一人ひとりの児童の学力の向上を目指す。③家庭と連携して、学習習慣の定着に取り組む。	①3年から6年で一部教科分担任を導入して学習指導の工夫改善に取り組んだ。教師の個性を生かせる。②学年だよりや個人面談を生かして、家庭学習の定着化を図る。その際、タブレットを有効活用する。今後の学びのスタイル、環境、評価を整える必要がある。	A	確かな学力	①主体的・対話的で深い学びの具現化やカリキュラムマネジメントにより授業改善を図る。②ICT機器を有効活用し、意欲の向上に生かす。一人ひとりの児童の学力の向上を目指し、少人数指導や教科担任制など指導方法の工夫に取り組む。③家庭と連携して、学習習慣の定着に取り組む。			確かな学力	c1		
豊かな心	①道徳の授業の充実のために「被災地理解学習プログラム」を実施する。確かな人権感覚・意識を育成するために、「人権教育学習プログラム」などにも計画的に取り組む。②豊かな感性や情操を育成するために、体験学習、音楽や芸術に触れる活動、読書活動に取り組む。③縦割り活動を他者理解・自尊感情の向上に生かす。	①コロナのことも含め、差別・偏見の防止に向けて全校および学級で指導することができた。②宿泊体験学習、運動会等、学校行事を円滑に進め、達成感を味わうことができた。③縦割り活動を通して、互いを尊重し、認め合う姿が多く見られた。6年生の最上級生としての自覚、他者理解が育った。	B	豊かな心	①道徳の授業の充実のために「被災地理解学習プログラム」を実施する。人権感覚・意識を育成するために、「人権教育学習プログラム」などにも計画的に取り組む。②豊かな感性や情操を育成するために、体験学習、音楽や芸術に触れる活動、読書活動に取り組む。③縦割り活動を他者理解・自尊感情の向上に生かす。			豊かな心	c2		
健やかな体	①自分から運動に親しみ、体力向上に取り組もうとする姿勢を育成するために、トリムコースの活用、体育的行事などに取り組む。②自分から生活習慣の改善、健康増進や健康な生活を送ろうとする意識を高めるために、食育や健康教育に取り組む。	①体育の準備運動などでトリムコースの活用はできた。短縄集会等も取り入れ、体力向上に務めた。②給食の残食率は、牛乳や乳製品以外において、昨年度より削減することができた。③コロナ対応のため、手洗い・うがい等の自己の健康管理にいかすことができた。	B	健やかな体	①自分から運動に親しみ、体力向上に取り組もうとする姿勢を育成するために、トリムコースの活用、体育的行事などに取り組む。②自分から生活習慣の改善、健康増進や健康な生活を送ろうとする意識を高めるために、食育や健康教育に取り組む。			健やかな体	c3		
キャリア教育	①自己肯定感を向上させるために、目標の設定や振り返りのある学習に取り組む。コミュニケーション力を向上させる学習プログラムや活動に取り組む。②集団の課題を主体的に解決する力を育成するために、様々な集団活動や地域貢献・社会参画に関する体験に取り組む。	①制限されている中ではあったが、学級や学年の活動において、できる範囲の取組を行った。また、自分づくりノートの活用もできた。②2年の収穫体験、3年の防災センター見学は実施することができた。③総合学習において、地域の産業に目を向け、関わりをもつことができた。	C	キャリア教育	①自己肯定感を向上させるために、目標の設定や振り返りのある学習に取り組む。コミュニケーション力を向上させる学習プログラムや活動に取り組む。②集団の課題を主体的に解決する力を育成するために、様々な集団活動や地域貢献・社会参画に関する体験に取り組む。			キャリア教育	c4		
いじめへの対応	①いじめの未然防止のために、学校いじめ防止基本方針に基づき、アンケートや面談により児童の状況把握を行い、組織的に対応するとともに、いじめを生まない集団づくりのための指導を計画的に行う。②学校いじめ防止基本方針に基づき、保護者との連携や関係機関との連携を推進する。	①未然防止に向け、アンケートや面談による児童の状況把握を行い、情報共有の意識が高まった。②研修を通して、迅速かつ正確な情報共有の体制づくりの改善に取り組んだ。事業に対するスピード感がある。③個人面談は3回かつ専門面談を取り入れ、保護者の声を聴き、思いの共有に尽力した。	A	いじめへの対応	①いじめの未然防止のために、学校いじめ防止基本方針に基づき、YPアセスメントシートや児童アンケートや面談により児童の状況把握を行い、組織的に対応するとともに、いじめを生まない集団づくりのための指導を計画的に行う。②学校いじめ防止基本方針に基づき、保護者との連携や関係機関との連携を推進する。			いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	①キャリアステージに応じた人材育成を行うために、ぶり会、企画会などの開催と各種研修を推進する。②校内組織が効率良く機能するために、「会議ガイド」「組織ガイド」や評価指標に基づく客観的な学校評価を活用して、組織運営の改善に取り組む。また、業務改善や適切な労務管理を実行し、働き方改革を推進する。	①メンターチーム研修では授業研究を中心に若手育成を図るとともに、お互いを高め合うことができた。②職員室や更衣ロッカーなど、できる限りの増設はできた。③日課表を工夫し、ゆとりの時間、ノー会議デーや事務処理日の設定を増やすことができた。課題も浮き彫りになり、よりベターな方策を練りたい。	A	人材育成・組織運営(働き方)	①キャリアステージに応じた人材育成を行うために、ぶり会、企画会などの開催と各種研修を推進する。②校内組織が効率良く機能するために、「会議ガイド」「組織ガイド」や評価指標に基づく客観的な学校評価を活用して、組織運営の改善に取り組む。また、業務改善や適切な労務管理を実行し、働き方改革を推進する。			人材育成・組織運営(働き方)	c6		
国際教育	①「外国語活動」「外国語科」を通して、外国語(英語)に親しむ。②IUIによる授業やアプリカについての一校一國運動等によって外国の文化に触れ、また、日本の文化を学習することで、国際理解の態度を育成する。	①「外国語活動」「外国語科」を通して、児童が意欲的に外国語活動に取り組む姿があった。②AET・IUIの授業の積み重ねがあり、児童が安心して英語学習を楽しむことができている。	B	国際教育	①「外国語活動」「外国語科」を通して、外国語(英語)に親しむ。②IUIによる授業やアプリカについての一校一國運動等によって外国の文化に触れ、また、日本の文化を学習することで、国際理解の態度を育成する。			国際教育	c7		
児童指導	①問題行動の防止や適切な指導のために、アンケートや面談により児童の状況把握を行い、校内や関係機関と情報を共有しつつ、組織的な対応を行う。②適切な特別支援教育を行うために、関係機関との連携や研修を実施し、保護者との連携や児童生徒との交流活動、個人面談など計画的に取り組む。	①素早い情報共有の対応や怪我・事故防止のための校内巡回や呼びかけをより強化し、体制を整える。②ケース会議を実施するなど、関係機関との連携を図ることができた。保護者や児童に寄り添いながら、より適切な支援ができるよう取り組む。③事業に対してチームで対応することの徹底を図った。	A	児童指導	①問題行動の防止や適切な指導のために、YPアセスメントシートや児童アンケートや面談により児童の状況把握を行い、校内や関係機関と情報を共有しつつ、組織的な対応を行う。②適切な特別支援教育を行うために、関係機関との連携や研修を実施し、保護者との連携や児童生徒との交流活動、個人面談など計画的に取り組む。			児童指導	c8		
信頼される学校づくり	①安全な環境づくりのために、施設管理を徹底し、防災、防犯等に対する計画を立案し、訓練・指導を実施する。②保護者からの信頼を高めるために、適切な広報活動を行う。また、児童や保護者の入学・進学時の不安の軽減のために、計画的な入学準備、幼保小連携、小中連携等を行う。	①学校だよりや保健だより、給食だよりなどは定期的に発行できた。HPは掲載内容を見直し、定期的に更新できるように努めた。コロナ対応を含め、情報アプリ「ココア」を導入し、迅速かつ正確な情報発信を心がけた。③児童・保護者・地域の要望等は真摯に受け止め、共有する姿勢を心がけた。	B	信頼される学校づくり	①安全な環境づくりのために、施設管理を徹底し、防災、防犯等に対する計画を立案し、訓練・指導を実施する。②保護者からの信頼を高めるために、適切な広報活動を行う。また、児童や保護者の入学・進学時の不安の軽減のために、計画的な入学準備、幼保小連携、小中連携等を行う。			信頼される学校づくり	c9		
地域連携・学校運営協議会	①地域の人的・物的資源を活用した児童の学習活動や学校支援活動の推進に取り組む。また、社会教育との連携や学校施設の有効利用など地域との協働を図る。②学校運営協議会の効果的で円滑な運営に取り組む。地域や保護者に向けて情報を公開する。	①野菜の収穫体験学習は実施することができた。また、大学生や地域による学習支援もできる範囲の中で実施した。②今年度は授業参観等は実施し、中学校ブロック学校運営協議会を通して、今後の学校運営に関する共通理解を深めることができた。	B	地域連携・学校運営協議会	①地域の人的・物的資源を活用した児童の学習活動や学校支援活動の推進に取り組む。また、社会教育との連携や学校施設の有効利用など地域との協働を図る。②学校運営協議会の効果的で円滑な運営に取り組む。地域や保護者に向けて情報を公開する。			地域連携・学校運営協議会	c10		
ブロック内評価後の気付き	今年度は授業研究会も実施し、ブロック内で協議をしたり、情報を共有したりすることができた。その中でも自分づくり教育(キャリア教育)では、各校の資質・能力系統表に基づいた指導を確認することができた。次年度はより充実した小中一貫教育の在り方を皆で考えていきたい。また、児童生徒指導や人権教育推進についても、ブロック内でテーマを共有し、具現化を図りたい。			ブロック内評価後の気付き				ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価	地域ケアプラザで作成した雑巾を学校に寄付していただき、実際に活用している様子を伝えたところ、お互いにより相乗効果を育むことができた。校外学習で農業体験に移動するときに、マナーを守って行動できている様子を地域の方から評価され、児童の自己肯定感を向上させることにつながった。六角橋中ブロックの学校運営協議会では各校の現状を報告し合い、共有することができた。			学校関係者評価				学校関係者評価			
中期取組目標振り返り	新型コロナウイルスの中で、できる範囲の中で教育課程を編み取り取り組んだ。教科担当制を取り入れるなどの工夫をし、皆が学年担任という意識で授業や児童指導に取り組めた。国語については、より効果的な学習指導や適切な評価ができるように、年間を通して研究に取り組んだ。学校全体でOT教育を推進し、タブレットを有効に生かし、教育効果を高めることができた。運動会においては午前中開催とし、全児童・保護者で実施し好評を得た。全体的に経験年数が少ない職員構成であるため、学年主任クラスの人材育成や組織の一員としての自覚など課題は多い。来年度も児童指導・理解を学校経営の柱として、だれもが安心して、豊かに学校生活を送ることができるよう、学校・地域・家庭が連携し取り組む。			中期取組目標振り返り				中期取組目標振り返り			